

令和2年度シラバス (芸術)

学番中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	芸術(書道I)	単位数	2単位	学年(コース)	4学年
使用教科書	東京書籍『書道I』				
副教材等	新潟県高等学校教育研究会 美術・工芸・書道部会編『書』				

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ① 古典の臨書、鑑賞、分析を通して基本技術の習得を目指す。
- ② 工夫し、挑戦し、粘り強く努力する姿勢を身につけさせ「自分自身の作品」を作るための力を育てる。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	漢字の書 楷書	執筆法、用具用材	正しい姿勢・執筆法を身につけさせる。用具用材について理解させ、丁寧に扱う態度を養う。	3	授業の取り組み
4		漢字の成立と変遷 書道用語 楷書の用筆法	漢字の歴史について理解させる。 基本的な書道用語を理解させる。 楷書の用筆・運筆法、字形の取り方について理解させ練習させる。	4	授業の取り組み 作品
5		九成宮醴泉銘	古典を臨書する意義を理解させる。 唐代の作品により、用筆・運筆法、字形の取り方、古典の特徴について注意し臨書させる。	4	授業の取り組み 作品
5		孔子廟堂碑	唐代の作品により、用筆・運筆法、字形の取り方、古典の特徴について注意し臨書させる。 初唐の三大家について理解させる。	4	授業の取り組み 作品
6		龍門造像記	北魏楷書の臨書・鑑賞により理解を深める。 龍門石窟や造像記について理解させる。	5	授業の取り組み 作品
7		自書告身	唐代の作品により、用筆・運筆法、字形の取り方、古典の特徴について注意し臨書させる。「人物」「背景」について理解させる。	5	授業の取り組み
8	秋燕祭	(作品制作)	秋燕祭作品展示の準備をさせる。	6	授業の取り組み 作品
9	(文化祭)準備				
10	行書	歴史、用筆、特徴	楷書と行書の違い、特徴について、及び、用筆・運筆法について理解させる。	5	授業の取り組み
10		蘭亭序	古典の臨書や鑑賞を通して、用筆・運筆法、字形の取り方について理解させる。	4	授業の取り組み 作品
11	創作	楷書又は行書で創作	創作の意義、方法について理解させる。初歩的な創作で完成に至る喜びを体験させる。	5	授業の取り組み 作品
12	篆刻	一字印	初歩的な一字印を制作させ技法を身につけさせる。	5	授業の取り組み 作品

1	仮名の書	歴史、筆使いの基礎	基本的な線、運筆法について理解させ、練習させる。	3	授業の取り組み
1		いろは歌 (単体)	単体の特徴を理解させ、練習させる。	3	授業の取り組み 作品
1		連綿、変体仮名	連綿の特徴を理解させ、練習させる。	3	授業の取り組み 作品
2		蓬莱切(行書き)	平安時代の古典(古筆)を臨書・鑑賞させ、仮名の美を感じ取らせる。	2	授業の取り組み 作品
2	漢字仮名交じりの書	いろいろな線による表現	用筆・運筆法を工夫させる。	2	授業の取り組み
		用具用材による表現の変化	筆や紙の種類、墨色の違いによって表現が変わることを理解させる。	2	授業の取り組み
		紙面構成のバリエーション	文字の大きさと全体構成の工夫の仕方を理解させ、創作につなげる。	2	授業の取り組み
3		創作	書家や文人の作品を参考にしたり、用具用材、構成など工夫し、様々な作品を制作させる。	3	授業の取り組み 作品

計70時間 (50分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ・ 単元毎に作品製作をし、提出する。
- ・ 夏季休業中の課題は別途指示する。

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
(関心・意欲・態度)		(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書表現の諸要素を感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付けようとしている。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	
以上の観点を踏まえ、				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習状況 (取り組む姿や発言等)</li> <li>・ 制作過程 (制作中の工夫等)</li> <li>・ 活動記録 (自己評価、相互評価等)</li> <li>・ 作品</li> </ul> などから総合的に評価します。				

#### 6 担当者からの一言

「書は人なり」「書は心の画なり」といわれるように、書には書く者の心(生き方・考え方)が端的に表れます。ですから書を学ぶということは、自分自身を知り・省み・高めていくことのひとつの手だてとなるのです。一生懸命に授業に臨み、「技術の鍛錬」と「心の鍛錬」とで「自分自身の書」を作り上げていきましょう。

(担当：矢坂)